

Direct-Information of Orienteering in Nippon

(公社) 日本オリエンテーリング協会 理事会・事務局便り



第 20 号 (2020 年 3 月 16 日発行)

新型コロナウイルス感染症の流行により、野外での集団活動にも大きな影響が出ております。日々状況は変わりますが、オリエンテーリングの活動を維持できるようご協力をお願いいたします。

●本号の内容

- ・新型コロナウイルス感染防止のための要請
- ・山西未来塾開講のお知らせ
- ・オフィシャルパートナー紹介
- ・公認大会の制度改定に向けての動き
- ・全日本スキーオリエンテーリング選手権大会報告
- ・全日本トレイルオリエンテーリング選手権大会報告
- ・第 23 回理事会議事録
- ・今後の公認大会・講習会のお知らせ

●新型コロナウイルス感染防止のための要請 (会長：山西)

オリエンテーリング大会主催者・愛好者のみなさまへ

1. 大会主催者の方への要請内容

- ①大会開催地の自治体、会場施設からの要請がある場合は、それを尊重してください。
- ②公共交通による移動や宿泊を伴い、感染リスクが高い規模の大きな大会は開催自体を中止または延期、規模縮小をお願いします。
- ③可能な限り屋内での更衣・滞留を避け、屋内空間の人口密度を下げる努力をしてください。また屋内空間の換気を常にしてください。
- ④実施を判断した大会においては、以下の内容を守るようお願いします。
 - i) 濃厚接触につながる併催事項は、中止または延期してください。
例 1：懇親会 例 2：大人数による室内での式典 (目安として 30 名を超える人数)
 - ii) 感染の恐れのある方は大会会場に来ないように呼び掛けてください。
 - iii) 参加者が無理な参加をしないよう呼び掛け、それに対する参加費の返金等を合理的に可能な限り提供してください。
 - iv) 参加者には競技中以外のマスクをつけた行動や消毒・手洗いを励行するよう呼び掛けてください。運営者も同様の感染 拡大防止策をとってください。
 - v) 物への接触による感染防止に努めてください。レンタル物品 (電子カード等) の消毒を可能な限り行ってください。配布物 (エントリーパッケージ、地図、位置説明) について、他者の接触あるいは飛沫の付着を防ぐような配布方法を工夫してください。

2. オリエンティアの皆さんへ

- ①公共交通による移動や宿泊を可能な限り控えるとともに、それらを利用する際はマスク着用、確実な手洗いの実行など、感染防止に最大限の注意を払ってください。また競技中以外は極力マスクをつけ、飛沫飛散防止を心がけてください。
- ②発熱、体調不良等の場合には無理して参加しないでください。
- ③可能な限り屋内での更衣・滞留を避けてください。濃厚接触につながる閉鎖空間での対話は極力控え、行う際にはマスクを着用してください。また、スタート・フィニッシュでも必要以上の滞留を控

えてください。大会会場を後にする際には確実に手洗いを実行してください。

④身体の疲労（過労）や寒冷にさらされることは、免疫力を低下させますので、感染、発症のリスクが上がります。競技参加後は休養や保温にご留意ください。

⑤ご家族・同居者と意思疎通を図り、その方々にもご配慮ください。

要請期間 2020年（令和2年）3月30日まで。
ただし、状況により延期することがあります。

【説明】

新型コロナウイルス（COVID-19）感染拡大の脅威に全世界が晒され、WHOがこの状況をパンデミックと表現しています。このウイルスは人から人への濃厚接触により感染拡大することが判明していません。

オリエンテーリングは森の中で行われるスポーツであり、競技自体では感染拡大につながる濃厚接触は希にしか起こりません。しかし、大会で大人数（目安として30名を超える人数）が同じ室内に集まることは好ましくありません。また、大会参加のための公共交通での移動や宿泊では、不特定多数と接触する可能性があり、より高いリスクがあります。

感染拡大は人類にとって脅威である一方で、リスクへの過剰な反応は別のリスクを生み出しかねないこと、このような時期において屋外での適切な運動は心身の健康維持に重要であることを考慮し、大会実施およびオリエンテーリング参加の際には感染拡大を助長することのないよう、公益社団法人日本オリエンテーリング協会として、オリエンテーリング大会主催者に上記の通り要請します。

●山西未来塾開講のお知らせ（副会長：愛場）

オリエンテーリングの明日を考えよう！

この夏、ランニング界の大御所で、自然流ランニングの提唱者でもある山西JOA会長に、そのスポーツ理念を語って頂く「山西未来塾」を企画しています。

もう一度オリエンテーリングのスポーツとしての特性は何かを考え、皆で今後のオリエンテーリングの理想的・具体的な未来像を探るワークショップです。

参加対象は20～40代の若手オリエンティア限定。お盆休みに妙高高原での2泊3日の合宿です。近くに温泉やクロスカントリーコースなどもあります。

近日中に要項を公開する予定です。多数の方が参加されることを期待いたします。

●オフィシャルパートナー紹介

今回はJOA副会長として、またスキーO委員としてご活躍の(株)アークコミュニケーションズ(<https://www.arc-c.jp/>)代表取締役 大里真理子様から、会社のご紹介、オフィシャルパートナーとなったきっかけ、オリエンテーリング界への期待についてご寄稿いただきました。

①会社/サービスのご紹介

翻訳やWEBの企画制作サービスを提供しています。15年前にたちあげ、社員100人弱の会社です。ハーバードビジネスレビューの70%を訳すなど経営コンテンツやマーケティングマテリアルの翻訳が得意です。ネイティブが訳す英訳は好評で44言語対応しています。また前職がSEだったのでITなどの技術文書の翻訳が多いのも特長です。

スキーオリエンテーリングの全日本チャンピオンの石原湧樹選手や平昌オリンピックに出場したフリースタイルスキースロープスタイルの山本泰成選手を擁するスキーチームをもっています。

②オフィシャルパートナーになろうと思ったきっかけ

何と言ってもオリエンティアの方々が魅力的だからです。

オリエンテーリングは、地図や地形というアナログ情報を元に、過酷な状況で自分で判断を下すスポーツです。そういうスポーツを愛好する方々は、自然と共生し、様々なアクティビティ、仕事やランティアに従事なさり、自立しています。生涯スポーツとして関り、人生の楽しみ方もお上手です。

大学時代にはほとんどオリエンテーリングをしていなかったにも関わらず、こうやって縁ができ、

私の身の丈にあった関わり方が出来ているのは幸せです。

③オフィシャルパートナーとしての期待

こんなに素晴らしいオリエンテーリングというスポーツを持続可能にするためには、情熱をもって「普及」や「強化」とともに、「資金（お金）」のことを考える必要があります。

マイナースポーツは広告効果が薄いので企業のスポンサーが付きづらいのが実情です。しかし、アウトドアイベント運営のノウハウを、教育コンテンツとしての深みを、素晴らしいオリエンティアコミュニティを活用することで、資金を生み出すことが出来るのではないのでしょうか？

是非、オリエンティアの一人一人がお金のことも考え、企業とのWINWINの関係を模索してください。

JOA オフィシャルパートナーにご興味のある方をぜひご紹介ください。

連絡先：joa@orienteering.or.jp 事務局

●公認大会の制度改定に向けての動き（副会長：愛場）

2019年9月に出された、「公認大会のありかたを考えるワーキンググループ最終報告」を受けて、公認大会の制度改定に向けて動き始めました。去る2月1日に検討会を開催し、公認大会のあるべき仕組みを考えるに当たって、議論を重ねました。

オリエンテーリングには、高い能力の求められる競技スポーツの面と、誰もが楽しめる生涯スポーツの面があり、それが共存できるという特徴があります。また、参加者が運営者にもなり他の競技者に楽しさを提供できるという、他のスポーツでは見られない特徴もあり、大会運営の理念やノウハウも重要です。

「公認大会」という言葉のイメージは、人によってかなり違うかとは思われますが、上記のようなオリエンテーリングの特性を活かすために、公認大会はそもそもどのような目的を持っているかを整理しました。その結果、

- ① 高い質を保証し、オリエンテーリングの競技上・運営上のあるべき姿を示す大会
- ② オリエンテーリング大会のモデルを広く提示する大会
- ③ 全日本大会選手権クラスの予選

といった目的があると考え、具体的な制度設計の段階に入りました。

現状の公認大会には、競技のレベル以外にも、財政的な問題、普及につながっているかどうか、生涯スポーツとして皆が楽しんでいるか、といった様々な問題があると思われまます。今後細部を詰め、よりよい制度を目指して、今年中には整備し、2021年度からの実施を目指しています。

●第15回全日本トレイルオリエンテーリング大会報告

2020年3月8日、東京都にて全日本トレイルオリエンテーリング大会が開催されました。新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、Open-Eクラスのみの縮小開催となりました。

Open-E クラス

1位	田代雅之	静岡 OLC	23点 95.0秒
2位	田中翔大	練馬 OLC	22点 17.0秒
3位	山口尚宏	福岡県協会	22点 77.5秒

●第9回全日本スキーオリエンテーリング大会報告

2020年3月7-8日、全日本スキーオリエンテーリング大会が開催されました。新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、急遽北海道から岩手県八幡平市安比高原に会場を移しての開催となりました。

3月7日（土）ロングディスタンス競技

男子選手権

- 1位 石原湧樹 1:17:31 アークスキーチーム
- 2位 寺嶋謙一郎 1:35:09 ES 関東C
- 3位 木谷弥彦 1:54:21 北海道 OL 協会

女子選手権

- 1位 本間樹来良 0:58:34 京都大学
- 2位 酒井佳子 1:00:27 札幌農学校
- 3位 高橋美和 1:15:33 アークスキーチーム

3月8日（日）都道府県対抗リレー競技

男子選手権

- 1位 北海道 1:30:41 （大西肇/福岡悠生/塩平真士）
- 2位 長野県 1:57:27 （木村佳司/高橋美和/安達利雄）
- 3位 岩手県 1:59:10 （高橋郁磨/信原颯斗/石原拓巳）

女子選手権

- 1位 岩手県 0:57:41 （大里真理子 / 加納尚子 / 多田智美）

●第23回理事会議事録

- 1.開催日 2020年2月22日（土） 11:00～17:00
- 2.開催地 大阪 梅田新研修センター
- 3.理事
（出席） 藤井範久 伊藤好信 木村佳司 平島俊次 前田真理子 楠見耕介
愛場庸雅 瀬川 出 小林 力 宮川早穂 藤本拓也 新帯 亮
島津 弘 山西哲郎 信原 靖
羽鳥和重(12:30以降退席) 茅野耕治(15時以降退席)
（欠席） 奥田健史 高橋利之
監事（欠席） 尾上秀雄 齋藤和助
記録 高村 卓
- 4.議長 定款第32条により、山西会長が務めた。

審議事項

第1号議案 中長期事業計画

山西会長から、中長期事業計画を提案された。

- ・計画実践のため、自己点検評価委員会を作ること。若手による「将来構想委員会」を提案された。
- ・前田理事から、中長期事業方針に財務のことを入れたい。財務の見える化を進めていると意見があった。

以上、審議の結果、出席理事16名が賛成し承諾した。

第2号議案 公認大会の改革方針

愛場理事から、公認大会の改革方針を説明する公開文書原案が提案された。

- ・フォレスト競技が対象となることをわかりやすくする。
- ・期限は次の理事会を越えないようにする。
- ・修正の文言については、原案作成に携わった公認大会WGに一任する。

等の意見が出た。

以上、審議の結果、出席理事 16 名が原案通り賛成し承諾した。

第 3 号議案 全日本大会実行委員会委員

木村理事から、全日本オリエンテーリング大会実行委員会に以下のメンバーを加えることが提案された。

委員／瀬川出、宮川早穂

以上、審議の結果、出席理事 16 名が賛成し承諾した。

第 4 号議案 スプリント委員会設立

瀬川理事から、スプリント委員会を設立する。メンバーは以下の通りとすると提案された。

委員／瀬川出（委員長）、笠原健司、大石洋輔、上島浩平、富山稜真

以上、審議の結果、出席理事 16 名が賛成し承諾した。

第 5 号議案 WMG2021 に向けての基本財産引当資金の運用

平島理事から、以下のことが説明された。

- ・WMG/WMOC2021 の地図調査費用が 1000 万円かかる。
- ・WMG2021 関西実行委員会から助成金が出るが、2021 年度にならないと支給されないため、かかる費用の支払いに充てる資金として、基本財産引当資金の中から 1000 万円を運転資金として運用願いたい。
- ・運用分については、2021 年度に WMG2021 関西実行委員会から助成金を受け取ったときに基本財産引当資金に戻す。

以上、審議の結果、出席理事 16 名が賛成し承諾した。

第 6 号議案 2020 年度事業計画・予算案

事務局から事業計画書と収支予算書について説明があった。

・2020 年度の事業計画については、各委員会からの提案等を元に作成した。主催大会のうち、全日本トレイルの日程は未定である。全日本ジュニアは 2021 年開催であるが開催地未定である。

・収支予算書についても、各委員会からの予算請求に基づいて作成した。助成金事業や各全日本大会の収支関係については別途資料による説明があった。

・茅野理事から、事業計画書 4.2.1 に関して、7 月の IOF 総会への出席について質問がで、派遣について後日決定することになった。

以上、審議の結果、出席理事 15 名が原案通り賛成し承諾した。

第 7 号議案 日本スポーツ振興センター(JSC)からの質問状に対する回答、及び謝金規程の一部改訂

7 号議案 1 項

(1) 委託契約等をしたときは、助成金要領に基づき、契約書及び見積書・納品書等を取り交わす。

(2) JSC から届いた書類については、専用フォルダに綴じ込み確認。

JSC からの指摘に基づき、今後の処置方について(1), (2)のように回答する。

以上、審議の結果、出席理事 15 名が賛成し承諾した

7 号議案 2 項

・謝金規程 別表 1 謝金基準表の変更。

講習会等における実技指導の対象者として、現行規程「指導者」を修正し、「指導者・トップアスリート」とする。

以上、審議の結果、出席理事 15 名が JSC への回答及び謝金規程の修正に賛成し承諾した。

第 8 号議案 イベントアドバイザーに関する規程の変更

平島理事から、イベントアドバイザーに関する規程の変更について提案があった。

主な改正点。イベントアドバイザー講習会を 3 年毎から、2 年毎に行う。資格更新の年限を 4 年毎にする。

以上、審議の結果、出席理事 15 名が賛成し承諾した。

第 9 号議案 AsJYOC ルール改正提案

平島理事から、JOA からアジアワーキンググループに「毎年開催される AsJYOC において、その奇数年大会をアーバンタイプにする」とルール改正を提案すると説明があった。

以上、審議の結果、出席理事 15 名が賛成し承諾した。

第 10 号議案 スキー0 世界選手権誘致

木村理事から、2024 年日本開催に立候補するという提案があった。そのための期限として 2020 年に立候補を表明する必要があると説明があった。

以上、審議の結果、出席理事 15 名が賛成し承諾した。

第 11 号議案 委員会規程の改訂

愛場理事から委員会の追加と名称変更について提案があった。

以上、審議の結果、出席理事 14 名が賛成し承諾した。

第 12 号議案 アスリート委員会の設置

宮川理事から、アスリート委員会のメンバーは以下の通りとするという提案があった。

寺垣内航（委員長）、堀田遼、宮川早穂、尾崎弘和、稲毛日菜子

以上、審議の結果、出席理事 14 名が賛成し承諾した。

第 13 号議案 委員会の整理統合・再編成

第 14 号議案 クラブ認定に関する規程案

以上、第 13、14 号議案は、継続審議となった。

報告事項

1. 担当業務執行理事から、各委員会の報告があった。
 - ・規程の改訂作業(競技委)
 - ・日本スポーツ協会「公認スポーツ指導者制度」への移行状況及び高体連登山部との連携
 - ・2021 年度－2020 年度全日本大会の推進
 - ・WMG/WMOC2021 準備状況
2. 各ワーキンググループ(WG)からの報告
 - ・組織改革、ノミネーション、オフィシャルパートナー、スプリント
 - ・公認 WG 答申を受けての対応
3. 事務局から
 - ・ホームページリニューアール
 - ・ガバナンスコード対応について
 - ・2020 年度全日本リレー大会の状況
 - ・今後の全日本リレー大会の開催地予定
4. 広江競技委員会委員長から出された、羽鳥理事の SNS 等での不適切な発言に対する告発に関して意見交換を行った。対処方法を検討する必要があるが、危機管理・コンプライアンス委員会での検討が必要なのではないか、などの意見がでた。

●今後の公認大会・講習会のお知らせ

5 月 4-6 日	WMG/WMOC2021 関西プレイベント 3 日間大会	[公認 A]	(兵庫県)
5 月 30-31 日	インストラクタ養成講習会		(岐阜県)
7 月 4 日	霧ヶ峰ミドル大会	[公認 B]	(長野県)
7 月 5 日	関東学連スプリントセレ兼上尾 OLC 大会	[公認 S]	(埼玉県)
7 月 11-12 日	札幌 2 日間大会	[公認 B]	(北海道)
8 月 29-30 日	2020 年度イベントアドバイザー講習会		(滋賀県)
9 月 12 日	第 3 回東京理科大学オリエンテーリングクラブ大会	[公認 S]	(東京都)
11 月 21-22 日	全日本オリエンテーリング大会(ミドル・ロング)		(長野県)
12 月 6 日	全日本オリエンテーリング大会(スプリント)		(東京都)

以上